

學會雜誌

- 十、宮崎厚庵 明治四十三年、右上眼瞼瘤腫、日本眼科雜誌眼科漫筆の四
- 十一、辻武四郎 明治四十四年二月、初發眼瞼瘤、岡山醫學會二百五十三號
- 十二、河田壽太郎 明治四十四年六月、眼瞼蠶蝕性潰瘍ノ一例、岡山醫會二百五十七號
- 十三、豐田虎之進 明治四十五年、下眼瞼ニ發セル瘤腫及ビ黒色肉腫實驗例標本及ビ患者供覽、鎮西醫報百四十一號
- 十四、Peterson, 1901. Ueber den Bau des Carcinoms. Beiträge z. klin. Chir. XXXII.
- 十五、前田珍男 1903. Das Lidcarcinom. Deutschmanns Beiträge z. prakt. Augenheilk. Heft. 56.
- 十六、Ginsberg, 1903. Grundriss der patholog. Histologie des Auges. S. 16.
- 十七、Ziegler, 1905. Lehrbuch der allgemeinen Pathologie, I. Band, II. Aufl. S. 405.
- 十八、Kaufmann, 1907. Lehrbuch der speziellen pathologischen Anatomie, 4. Aufl. S. 1256.
- 十九、Schnaun, 1907. Grundriss der patholog. Anatomie, 8. Aufl. S. 48.
- 二十、Schnitze-Zelken, 1907. Exorbitate Facelle von Krebs der

Augenlieder. Klin. Monatsbl. f. Augenheilk. XLV. Bd. II. S. 70.

廿一、Graefe-Saemisch, 1908. Handbuch d. gesamten Augenheilk.

V. Band, 2. Abt. S. 186.

廿二、Greef, 1909. Atlas der äusseren Augenkrankheiten,

2. Aufl. Fig. 21.

●早發癩病ノ一異型ニ就テ

富山市 福田 美明(四)

早發癩病ノ分類タルヤクレペリン氏ハ最初破瓜病緊張病
妄想性癩病ノ三種ニ區別セシガ最近ノ著書ニ於テ前説ヲ
不十分ナリトシテ更ニ 一、單一性癩呆 二、破瓜病
三、抑鬱性癩呆 四、抑鬱性癩呆ニシテ妄想ヲ伴フモノ
五、激越性癩呆 六、緊張病 七、妄想性癩呆 八、言
語錯乱症ノ八種ニ分類スルニ至レリ是レ結局早發癩呆ナ
ル疾病ノ病源症狀經過等ノ未ダ一定セザルニ基クモノト
ス予ハ近來早發癩病ト診斷セラルベキ一患者ニ接セシモ
其症狀經過ハ甚ダ興味アルモノニシテクレペリン氏ノ分
類ニ一致セザルモノアルヲ以テ左ニ其大略ヲ記スルコト

トセリ。

男 某 二十二歳

遺傳的關係 父方ノ曾祖父母ハ老衰ニテ死去祖父ハ九十一歳老衰ニテ死シ飲酒平常三四合祖母ハ七十九歳老衰ニテ死ス父ハ四十七歳ノ時肺結核ニテ死シ飲酒約一合性質温順、母方ノ曾祖父ハ腦溢血ニテ死シ曾祖母ハ老衰ニテ斃ル祖父ハ四十九歳ニテ死去祖母ハ五十二歳ノ時腸瘻扶助ニテ死去セリ母ハ健康ニシテ神經質ナリ。

兄弟ハ十名ニシテ長女ハ本年三十七歳ヒステリ―症ヲ有ス第二ヨリ第六ノ兄弟ハ生後數日ニテ俗稱六日虫(子癇?)ニテ死去第七子ハ二十六歳ノ女子ニテ健康ナリ第八子ハ患者ニシテ第九ハ十八歳ノ男子健康成績拔群ナリ第十子ハ十六歳ノ男子ニシテ生來虛弱目下脊椎骨瘍ノ爲治療中ナリ。

既往病歴及本病歴并ニ經過 胎生期ハ父母共ニ健康分岐通常歩行生齒發語普通ナリ生來虛弱ニシテ氣質ハ内氣我儘ノ方ナリ小學時代ハ學業優等中學に入り寄宿舎生活ヲナスヤ性行一變シテ偏偏トナリ睡眠不良記憶力減退漸時學業不良ニ陥リ好シテ小説冒險世界等ノ空想的文學ヲ愛讀シ書籍器物等ヲ買ヒ集メ人ニ面談スルコト好マズ一室ニ閉居シ讀書ニ耽ルニ至レリ一昨年四月中學ヲ卒業シ爾來益々神經過敏トナリテ人ノ言ヲ用キズ六月突然富山ノ某女ガ自己ノ爲ニ肺病ニ罹リ死去セリ其ノ罪ヲ滅ボス爲ニ坊主トナリ一家ヲ次男ニ譲リ度シトテ家人ノ止ムルヲモ聞カズ上京シテ眞宗大學ニ入學手續ヲ承合シ或ハ經本ヲ買入レテ讀ムナドセリ當時同地ノ病院ニ入院セシガ隣室ノ入院患者タル未知ノ一小女ノ肺病ニテ

苦シムヲ見テ自分ノ爲ニ彼様ニナツタ彼女ハ嫁ニ來タイト思ヒ自分モ嫁ニセント思フテ居タニトド重症ニナツタト稱シ同女死去後ハ全く自分ノ爲ニ焦レ死ニ死シタノダトテ愁ヒ悲シミ此ノ罪亡ボシニ監禁室ニ入レヨトテ家人及醫師ニ迫リ七月來同室ニ入りシガ爲ニ著シク衰弱シ沈黙鬱憂スルニ至リ又普通室ニ出セシニ「自己監禁ノ隣室ニハ同郷人ノ林某ナル人貧乏ニテ入院シ非常ニ苦痛ヲ受ケツ、アルヲ以テ救助セザルベカラズ是非金子二百圓ヲ與ヘヨ」ト母ニ迫マリ又時々神佛又ハ偉人ノ命令ヲ受クルガ如ク叩頭シツ、「ハイ、今持ツテ上リマス」何分御願シマス」ナド稱シ或ハ病室ノ一隅ニ至リ傾聽シ壁ヲ視ツムルナド幻視幻聽アリテ家人等ニ面會スルヲ好マズ類リニ獨語失笑シ次テ攝食セズ便通排尿モ澆腸ニ非ズハ利スルコトナク一昨年九月上旬ヨリ一昨年十一月下旬ニ至ル迄全々昏迷狀態ニ陥リ攝食排尿排便等モ全々人手ニ非ズハナスコトヲ得ズ怡モ人形ノ如ク時々失笑スルノミナリキ然ルニ昨年二月下旬以降ハ時々醒覺シテ外出チナシ得ルニ至レルモ尙隔日ニ昏迷發作ヲ來シ無言不動食事ハ口内ニ入レズハ食セズ排尿排便ハ毎日澆腸シテ始メテ利尿ス殊ニ尿利ハ排便ノ有無ニ關セズ澆腸セバ必ズ排泄セリ、醒覺時ニハ發病前ト大差ナク入浴散步ヲ試シ或ハ書物ヲ讀ミ器物ヲ購入シ室内ヲ整理シ家人ト談話スルナド一見常人ト異ナルコトナキモ色慾亢進シ看護婦ニ戯ル、トアリ殊ニ其醒覺及昏迷ハ迅速ニシテ突然去來シ全く別人ト思ハル、点ニシテ時ニハ兄弟ト樂シクテニス、ベースボールヲ遊ブモ突然昏迷狀トナリ殊ニ便所ニ入ル迄差支ナカリシニ排便中昏迷狀ニ陥リ木偶然ト強梗狀態ニ陥ルコト屢次ナリ然モ同發作ハ全々自動運動不能ナル場合ト時ニハ一部ノ

動作ヲ成シ得ル場合トアリテ一定セズ殊ニ夜中突然看護人ヲ呼ビ排便ヲ促スモ其後ハ依然昏迷狀ニシテ歩行起臥排尿不能ナルヲアリ殊ニ日ニヨリテハカタレプシ一症狀著明ニシテ所謂蠅樣屈曲ヲ呈シ長時間同一体位ヲ取ルヲアリ然ルニ昨年十一月ヨリ本年三月廿五日頃迄ニハ同様發作一回モ來ルヲナク稍痴鈍狀態ニ陥リシガ如キモ一見常人ト異ナル所ナク經過セリ越エテ四月上旬ヨリ再ビ同様發作ヲ來シ其程度ハ前年度ノモノニ比シ輕度ニシテ閉目スルニ至ラズ排尿モ數回膀胱ニヨリ利尿セシモ其後ハ一定ノ時間ヲ經テ注意セバ自ラ排尿スルニ至リ攝食モ傍人ノ注意ニヨリ一々食器ヲ手渡シ口ノ附近ニ迄持チ行ケバ自ラ食事ス然レモ同發作ハ稍持續シテ數日又ハ一週間以上ニ及ビ忽然一日乃至二日、時ニハ三四日間醒覺狀態ニ歸スルヲアリ醒覺時ノ狀態ハ依度卑屈ニシテ人ニ面會スルヲ好マズ醫師ト面談スルモ顔面潮紅シ手ニテ顔ヲ被フナド稍奇態ヲ呈ス談話ハ斷續的ニシテ多クヲ語ラズ發作間ノ病狀ヲ聞クニ記憶不明ニシテ強エテ返答ヲ迫マル時ハ醫師ヤ母ガ傍ラニ居テ左様ナ事ハ解ラヌカト理屈ヲ述ブルヲアリ然シ時々突發的ニ發作中ノ出來事ヲ物語リ親類ノ安否ヲ問ヒ或ハ看護人ノ行動ヲ訴フルヲ見バ記憶ノ存在ヲ証スベシ尙醒覺時ニハ弟ノ勉強室ヲ見廻リ時ニハ「弟ガ生意氣ニナル」ナド母ニ意見シ冒險世界ヤ歐洲戰亂記小説等ヲ多ク購入シテ讀書スルヲ例トス又時々進ンテ散歩入浴ヲナシ活動寫眞ノ見物ヲナスモ注意力偏破ナリ自己ノ欲スルモノニハ甚ダ機敏ニシテ意表ニ出ヅルヲアリ。

現在症 身体的ニハ右肺炎加答兒ヲ有シ、角膜咽頭ノ反射減退スルモ膝蓋髓反射中等度ニ亢進セリ、

目下精神狀態ハ前記ノ如ク昏迷發作時ト醒覺時トニヨリ著シク差異アリ醒覺時ニハ小心ニシテ偏屈我儘ニシテ母兄弟ト親シク語ルヲナク人ニ遇フヲ好マズ類リニ小説等ノ書物不用ノ器物ヲ求メテ金錢ヲ濫費ス注意力ハ散亂性ニシテ靜止スルヲナク感情ハ鈍麻シテ母兄弟ノ訪問戰勝ノ快報ニ接スルモ喜悅スルヲナク智識方面ニハ大ナル異常ナシ幻視、幻聽、妄想等ナシ然レモ精神作用ハ一般ニ痴鈍狀ナリ。

昏迷時ニハ精神作用全部抑制セラレ談話、行動不能トナリ甚シキ時ハ閉目、強梗、木偶同様トナリ排尿、攝食不能トナル然レモ食物ハ口内ニ入ル、口ハ阻嚙嚙下スルヲ例トス輕度ノ時ハ陰部ヲ露出シ所々ニ吐痰スルナド耻感消失シ寒暑ノ感モ鈍ク軀幹ヲ露出スルモ醒覺セバ冷感ヲ訴ヘ多クノ衣類ヲ着ス。

經過 十六七歳ヨリ性質我儘トナリ神經衰弱症ヲ併發シ不眠、記憶力減退シ中學卒業後十九歳ノ春ヨリ一種ノ妄想ヲ有シ同年六七月頃ハ幻視幻聽甚シク同九月來昏迷發作ヲ來シ十九歳ノ十一月昏迷症輕快セルモ精神症狀増悪シ同年十一月迄ハ隔日ニ恰ド規則正シキ昏迷發作ヲ來シ十一月來本年三月下旬迄ハ何等昏迷發作無ク精神狀態ハ漸時荒癡セルモ著シキ異常ヲ認メズ本年四月上旬再ビ同發作ヲ來シ前年ニ比シ昏迷ノ狀態輕度ナルモ色慾亢進手淫吐痰等ノ痼症ヲ増加シ醒覺モ隔日ニ來ルヲナク所謂半醒覺ノ狀態數日連續シテ醒覺一兩日又昏迷狀ニ陥ルヲ例トス醒覺時ノ精神狀態モ漸時荒癡ニ陥ルヲ見ル今本病者ノ全經過ニ對スル昏迷發作ノ略圖及同一發作ノ摸樣ヲ示セバ左ノ如シ。

第一回昏迷發作

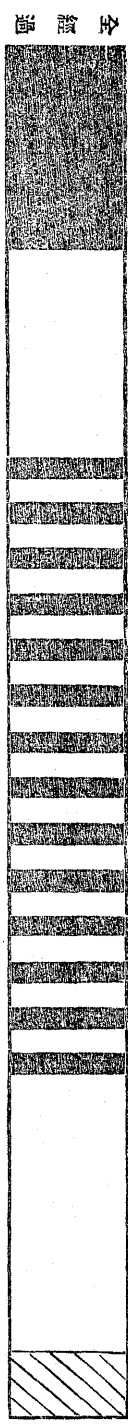
第二回昏迷發作(隔日發作ス)

第三回

大正元年九月ヨリ十一月 12 I/XI 2

大正二年三月ヨリ十一月迄

12 I/XI 2 3



16 18 19 21 22 24 25



大正三年度發作ノ一部



(弛緩性ノ
自他運動
能性可據
昏迷)

昏迷(強硬)

自他運動
能性可據

以上ノ如ク本病患者ハ最初神經衰弱症ヲ以テ始マリ次デ
幻視幻聽感情鈍麻轉換性ニシテ次デ一定期間妄想ノミヲ
主徵トシ早發痲病ノ妄想型ト見ルベキ期間ヲ經テ一昨年
九月來カタレプシー及昏迷發作ヲ來シ隔日毎ニ寛快シテ

發作去レバ精神症著明ナラズ所謂クチンスキ氏ノ變質者
ノ痲鈍狀態ニ一致スル点アリ然レモ母ノ言及ビ予ノ見ル
所ニヨレバ昏迷發作ハ所謂クレペリン氏ノ弛緩性昏迷狀
ニ移行シ其強硬度ハ感ゼシモ持續期間ハ長ク恰モ半醒覺

ノ状態ニアル事多シ要スルニ本病患者ハ最初ヨリ早發癩病ノ症状ヲ具備スルモ途中種々ノ病型ヲ呈セルト途中昏迷發作隔日位ニ頻發シ忽然醒覺スルガ如キ狀ヲ呈スルト精神痴鈍ノ進行割合ニ少ナルトノ三点ハ稍興味ヲ見出す

ベク又クレペリン氏ノ分類ニ基クハ本病者ハ最初ハ破瓜病(現ニ某大家ハ破瓜病ト診斷セリ)中途、妄想型ニ移行シ一昨年暮以來昏迷發作ヲ來シテ緊張病ト診斷スベ

キ複雑ナル經過ヲ取リシコトニシテ吾人ノ淺學無經驗ナル未ダ如上ノ例ニ相違セシコトナク從テ稍興味ヲ以テ診療ニ從事シツ、アル所以ナレバ不完全ナガヲ其大要ヲ記載シテ諸賢ノ示導ト垂教ヲ仰グ事トセリ。

雜錄

●久保武氏學位記及ビ論文要旨

學位記

石川縣平民

從七位

久保

武

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ京都帝國大學醫科大學教授會ニ於テ其大

學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト認メタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條ニ依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク

大正三年九月七日

文部大臣從三位勳二等法學博士 一木喜徳郎

論文審査要旨ハ官報第六百三十九號(大正三年九月十六日)ニ掲載セラレアルモ餘リニ簡短ニ失セルヲ以テ左ニ少シク増補シテ掲グルコト、セリ。

論文要旨

朝鮮人ノ體質的人類學補遺

第一 計測篇

著者ハ多年日本ニ於ケル人種解剖學的研究ニ從事シ己ニ數度(日本人ノ脊髓、血管、内臟、筋肉、骨格等ニ就キ)其調査成績ヲ發表シタリ明治四十年八月前韓國政府ノ招聘ニ應シ大韓醫院教官トシテ赴任スルヤ京城ニ在ルコト約四年其間第一ニ朝鮮人死體ニ就テ精密ナル研究ヲ遂ゲ次ニ朝鮮人骨格ノ多數ヲ蒐集シ更ニ朝鮮人死體ニ就テ人種解剖上ノ調査ヲモ行ヒ朝鮮人ノ體質的人類學ノ大成ヲ期セント企テタリ。

本篇ハ實ニ著者ガ朝鮮人生體ニ就テ研究セル人類學的調査成績ノ一部ニ屬スル也

著者ガ朝鮮人生體ニ就キ研究ニ供セル材料ハ二千二百十四名ノ學生、六百五十一名ノ兵士及五百六十名ノ藝妓總計三千四百二十五名ニ上レリ。

但シ學生ニ就テノ調査ハ測定事項僅少ニシテ殊ニ其大多數ハ幼年者ニ屬セルガ故ニ本論ニ於テハ省畧セリ。

此研究ニ於テ著者ガ採用セル方法ハ主トシテシユミツト氏ノ方針ニ從ヒタリト雖計測部點ノ數一百〇五件ニ達シ其殆ンド半ハ實ニ著者ノ創意ニ出テタルモノトス。